

## 5 「自然を守る」とは

私たち人間がくらししている場所には、国と国の境界や、<sup>きょうかい</sup>県や市、町や村の境界があります。しかし、自然の中でくらす生き物たちにとってはそのような境界はなく、生きものたちはあちこち自由に行き来しています。

たとえば、ツキノワグマのなわばりはとても広く、えさを探するために長い距離を一日で移動することもあります。芳ヶ平湿原などでよく見られるウソヤカルガモなどの鳥は、冬になると低地に移動し、春になるとまた戻ってきます。フワフワと空を舞う姿が美しいアサギマダラという蝶は、渡り鳥のように海を越えて長い距離を旅します。

このように、野生動物は、芳ヶ平湿地群の自然だけでなく、そのまわりの自然も利用しながら生きています。移動中に休息する場所や冬を越す場所の自然が守られていないと生きていくことができません。自然の中には境界がないので、すべての場所がつながっていて、私たちもまたその自然の一部といえます。

芳ヶ平湿地群の自然を守るために私たちができること、そして自分たちの身近な自然を守るためにできることを、みんなで考えてみましょう。

### 芳ヶ平湿地群を守る取組

#### コラム②

芳ヶ平湿地群の自然を守るため、また、訪れる人たちの安全を守るために、多くの人が協力してさまざまな取組をおこなっています。

#### 📌 草津白根パークサービスセンター

白根山湯釜のすぐ近くにある草津白根パークサービスセンターでは、季節ごとに見られる高山植物の開花情報や紅葉の状況、ハイキングコースや登山道についての情報を提供しています。春から秋にかけては、訪れた人たちに芳ヶ平湿地群のことをくわしく知ってもらうために解説員の案内による自然観察会などもおこなっています。

また、草津白根サービスセンターから湯釜までの歩道や、芳ヶ平湿原までの歩道を整備して、訪れる人たちが安全に自然を楽しめるようにしています。

#### 📌 芳ヶ平ヒュッテ

芳ヶ平ヒュッテは芳ヶ平湿原の近くにある山小屋です。

ヒュッテの管理人さんは、ここを訪れる人たちの安全のために年間を通じて山小屋を開け、トイレを管理してくれています。

冬は深い雪におおわれる芳ヶ平湿原ですが、雪山を楽しみたい登山者が安心して宿泊できるように、管理人さんは、スキーをはいて草津の町へと買い出しに行き、帰りは、大きなザックいっぱい食料をつめて帰ってくるそうです。



芳ヶ平ヒュッテ